



通常総会・ 役員改選

さる四月六日、秋田キャッスルホテルにて、今年度通常総会が開催されました。令和二年度活動・決算報告、曹青東北大会「秋田大会」収支決算報告（大会は中止）、新年度活動計画案・予算案が審議され、全て承認されました。

また、任期満了に伴う役員改選が行われ、新会長に第十教区福厳寺住職・栗谷大三師が選出されました。次いで、新会長の推薦により、副会長に第四教区珠林寺副住職・鮎川義寛師と、第十八教区本宮寺住職・佐藤善廣師が就任し、赤石基彦前会長が新顧問に承認されました。今期は「私たち青年宗侶に何ができるか」を考えていきたい旨が示されました。

会長就任にあたり



会長 栗谷 大三

第二十一期秋田県曹洞宗青年会会長を拝命致しました十教区(北秋田市)福厳寺住職の栗谷大三と申します。大役を担う事になり、責任の重さを感じながらも身の引き締まる思いであります。

前期、最後の一年間は新型コロナウイルスの感染拡大によって、秋曹青でも大変な一年でありました。東北大会も中止せざるを得ませんでした。しかし、そのような中でも「祈りの集い」をリモートで配信し、両大本山を結んでの「住職学研修」の実施など、今までにない新しい活動が出来た一年だったと思います。赤石会長をはじめ、執行部の皆様の御尽力に心から感謝申し上げます。

前々期のテーマが「出家を問

う」、前期のテーマが「お寺のこれから」と、「過去」と「未来」に目を向けたものでありました。そこで、今期は、「今」に目を向け、コロナ禍や社会不安、経験したことのない自然災害、様々な苦しみや悲しみを抱えている方がたくさんいる中で、「私たち青年僧侶には何ができるのだろうか」、「何をしなければいけないのだろうか」ということを考えていきたいと思えます。そして、青年会で学んだことを、檀信徒の方や地域の方へ敷衍していつて欲しいと願っております。

去る六月二十九日、今期のスタートでもある「弁道会」を行いました。SDGsについての研修で、SDGsとは何かというところから、私たちに出来ることは何かというところまで展開してお話いただきました。参加された方にとって、SDGsについて学び、考え、実行する機会となっていただけなら幸いに思います。

青年会の良いところの一つは仲間(法友)と知り合えることです。今年も新型コロナウイルス

の状況を見ながらの活動になります。なるべく会員同士が実際に顔を合わせられるようにしていきたいと思っております。

これから二年間、拙い会長ではありますが、会員皆様と県内御寺院様のご指導とご法愛を賜りながら、精一杯勤めさせて頂きたいと思えます。どうか二年間宜しくお願い申し上げます。

副会長を拝命して



副会長 鮎川 義寛

今期、副会長を務めさせていただきます。ただくことになりました四教区珠林寺副住職・鮎川義寛と申します。栗谷会長からお声をかけていただき、この大役に就くことになりましたが、お声掛けいただいた想いに少しでも応え

られるよう務めてまいりたいと思えます。

これまで青年会で開催する様々な研修会や行持に参加することで、多くの学びの機会をいただきました。また、会員の皆さまや諸先輩老師と関わらせていただく中で、得難いつながりを持つことができました。青年会で貴重な経験ができたことを大変ありがたく思うと同時に、私が会員でいられるのもあと数年となり、少し寂しい気持ちもあります。でも、だからこそ今できることに精一杯向き合っていきたいと思っております。

会長は、今期の活動を通して、私たち青年宗侶に何が出来るのかを考える機会にしていきたいとおっしゃっておられます。その思いが形になるようお力添えをしながら、私自身の考えも深めてまいりたいと思っております。

会員の皆さまと一緒に活動することを大切にしながら、少しでも会長の一助になれるよう務めてまいります。皆さま、この二年間どうぞよろしくお願い致します。

大丈夫の下に



副会長 佐藤 善廣

実のところ、ここ数年は曹青への参加もまちまちとなっていました。この度栗谷会長からお声掛けをいただいた際には「一会員としてお力添えは幾らでもします。とてもじゃないですが、副会長は務まりません。」と伝えたいように思います。お断りできたものだと考えていましたが、それからどういったことか、このような挨拶をしている次第です。

これもひとえに栗谷会長の「大丈夫です。」の力という他ありません。どこまでもソフトで優しく、重く響くのに心地よくスウーと抜けていく。どう作用するかというと、全てを肯定するように強烈に働くのだと私は感じています。「はい、頑張ります。」そんな言葉を返してい

ました。

思えば秋田に戻った当初、自分には何ができるかわからないのならば、声を掛けていただいたことには「はい、精一杯努めます。」でいくよりない——と過ごしてきたつもりです。初心にたちかえり、栗谷会長の下、会員の皆様と共に任を全うしてまいります。二年間どうぞよろしくお願いいたします。

清水道広です



事務局長 清水 道広

今期、事務局長を拝命しました清水道広です。もとより浅学非才の身ではございますが、少しでも会長のお力になれるよう尽力する所存でございます。という文面を何度か書いていると、自然にこのようになってしまふようです。

ここは肩の力を抜いて……。永

平寺での修行を終え師寮寺に戻った私は二十五歳でした。会長は佐藤道昭老師、副会長國安大智老師・奥山亮修老師、事務局長浅田高明老師。オーラを纏った老師方が正面にお座りでした。十七年を経過し、あの時の印象強かった老師方に多少なりとも近づけたかどうか。不安要素は尽きませんが、今日まで自問自答を繰り返しながら進んで参りました。これからも自問自答を続けて参ります。四十五歳までの限られた時間。教区の垣根を跳び越えた活動は、ひよつとしたらこの青年会活動中が最後になる宗師もいらっしゃることでしょう。この機会に是非ともやってみたい、学んでみたい、ということがございましたら進言して下さい。有意義な楽しい時間を作りましょう。最後にどうか二年間お助け下さい。清水道広でした。



総会にて、奥山真行議長(左)・栗谷会長・赤石前会長(右)

令和3年度 秋田県曹洞宗青年会 収支予算書

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

総収入	2,533,000
総支出	2,533,000
収支残高	0

収入の部

単位：円

項目	2年度予算額	3年度予算額	増▲減	摘要
1 会費	1,145,000	1,130,000	▲ 15,000	
1. 年会費	645,000	630,000	▲ 15,000	正会員5,000×126名
2. 賛助会費	500,000	500,000	0	
2 補助金	500,000	500,000	0	曹洞宗秋田県宗務所様
3 寄付金	1,000	1,000	0	
4 雑収入	711	1,383	672	受取利子等
5 繰越金	266,289	900,617	634,328	前年度繰越金
合計	1,913,000	2,533,000	620,000	

支出の部

項目	2年度予算額	3年度予算額	増▲減	摘要
1 事業費	950,000	1,200,000	250,000	
1. 研修費	700,000	900,000	200,000	弁道会、随聞会、 住職学研修等
2. 広報	250,000	300,000	50,000	会報、WEB運営等
2 事務費	250,000	370,000	120,000	
1. 事務記録費	50,000	100,000	50,000	事務用品等
2. 通信費	130,000	180,000	50,000	郵送料等
3. 交際費	50,000	60,000	10,000	祝賀等
4. 慶弔費	20,000	30,000	10,000	電報
3 事務局費	50,000	50,000	0	事務機器使用経費
4 会議費	30,000	110,000	80,000	
1. 総会	10,000	60,000	50,000	総会補助
2. 役員会	20,000	50,000	30,000	執行部会、代議員会等
5 負担金	200,000	200,000	0	全曹青会費、東北地協会費等
6 補助金	300,000	350,000	50,000	出向補助等
7 積立金	100,000	150,000	50,000	曹洞宗青年会東北地方集會準備金
8 予備費	33,000	103,000	70,000	
合計	1,913,000	2,533,000	620,000	

令和3年度 事業・活動計画

は秋曹青主催事業

日付	内容	場所
令和3年度		
4月6日	令和3年度 通常総会	秋田市 秋田キャッスルホテル
5月11日	全国曹洞宗青年会 中央研修会	東京都 曹洞宗檀信徒会館(オンライン併用)
12日	全国曹洞宗青年会 定期評議員会	東京都 曹洞宗檀信徒会館(オンライン併用)
12日	全国曹洞宗青年会 定期総会	東京都 曹洞宗檀信徒会館(オンライン併用)
27日	東北地区曹洞宗青年会連絡協議会 定例幹事会	青森県 ホテルニューキャッスル
6月29日	第35回 弁道会	秋田市 秋田キャッスルホテル
11月8日	第46回曹洞宗青年会 東北地方集会「岩手大会」	岩手県 ホテルシティプラザ北上
9日	東北地区曹洞宗青年会連絡協議会 常任幹事会	岩手県 ホテルシティプラザ北上
	住職学研修	
	第39回 随聞会	

※災害復興支援ボランティア活動と代議員会の開催、会報「曹青秋田」の発行は随時行う
 ※新型コロナウイルスの感染状況を慎重に見極めながら、進めて参ります。

第21期 秋曹青役員名簿

役職	氏名
会 長	栗谷大三
副 会 長	鮎川義寛
副 会 長	佐藤善廣
監 事	村松玉宗
監 事	近藤俊彦
監 事	岡部顕雄
事務局 長	清水道広
事務局 次長	山田卓爾
会 計	奥山春彦
書 記	福本光佑
庶 務	三浦史道
庶 務	嶋森良憲
庶 務	松井祐司
庶務 代議員	佐藤光潭

役職	氏名
W E B 委員 長	和田泰雲
W E B 副 委員 長	高橋潤一
W E B 委 員	佐藤龍道

役職	氏名
ボランティア委員長	戸澤広悦
ボランティア副委員長 代議員	尾久雄人
ボランティア委員	森田治人
ボランティア委員 代議員	荻津賢廣
ボランティア委員	山谷尚智
ボランティア委員 代議員	桜田元康

役職	氏名
事業部 会 長	大佐賀正信
事業部 副 会 長	松山純正
事業部員 代議員	小澤孝全
事業部 員	伊澤大雄

役職	氏名
代 議 員	鈴木慶道
代 議 員	東 光隆
代 議 員	朽木光哉
代 議 員	伊藤正法
代 議 員	桃園宗平
代 議 員	保坂大心
代 議 員	高田大航
代 議 員	齋藤智孝
代 議 員	三浦大伸
代 議 員	横山智弘
代 議 員	桜田元伸

役職	氏名
研修部 会 長 代議員	中村智信
研修部 副 会 長	菅野紀道
研修部員 代議員	矢萩宗淳
研 修 部 員	後藤哲元

役職	氏名
広報部 会 長	佐々木耕志
広報部 副 会 長	土屋泰順
広 報 部 員	佐々木光惇

全曹青会長インタビュー



九教区 倫勝寺住職 山田 俊哉

——全曹青第二十四期会長ご就任、おめでとうございます。師が全曹青に関わるようになった経緯と、具体的にどのような分野で頑張つてこられたのか、改めてお聞かせ下さい。

山田師：先ず、私が秋曹青に入ったのは平成十六(二〇〇四)年、佐藤道昭会長の期でした。当時、会員同士が仲良く綿密に交友を深められており、楽しい会という印象でした。私がパソコンに詳しいという事で佐藤誠峰師よりお声がけ頂き、当時ウェブサイト運営委員長の中澤宏哉師の下でお手伝いさせて頂き、それから秋曹青で長くウェブ委員長を務めさせて頂きました。そして中澤師が東北地協会長、全曹青東北管区理事をされた御縁で、平成二十一(二〇〇九)年に全曹青に入らせて頂いたのです。

初めは全曹青第十八期・久間泰

弘会長(福島県)の下、ICT(情報通信技術)担当庶務を務めました。組織内のITインフラを整備する意欲的な事業でした。全曹青のホームページ(HP)は中澤師がIT委員会に出向され作られたもので、引き継ぐ形で私がリニューアルさせて頂きました。オンラインショップも作りました。その期の最後には東日本大震災が発災し、諸先輩が必死に活動される姿を目に焼き付けながら、その後も継続して支援に参加しました。

第十九期には広報副委員長として引き続きHPの運営等を、第二期には事務局次長を務めました。当時は全国から集まって一度に会議する為に資料も膨大で、大変な量の紙を消費していました。そこで会議資料のペーパーレス化とクラウド共有化を行いました。全員がパソコンやタブレット端末を持参する形態になり、大変な効率化が実現したと思います。また、全曹青創立四十周年事業として、大本山總持寺での全国徒弟研修会などが開催されました。三松閣の地下二階から四階まで、一人でLANケーブルを何百mも引つ張った思い出があります。第二十一期には総合企画副委員長として『アプリソウセイ』を開発しました。第

二十二期には事務局長として、世界大会や映画『典座—TENZO—』制作等、大事業を経験させて頂きました。第二十三期には副会長としてコロナ禍対応に当たり、得意分野のオンライン事業に積極的に携わりました。

振り返ると、HP制作・ペーパーレス化・クラウド化などを進めてきて、副会長から今期会長拝命にかけて、コロナ禍でのオンライン事業を進めることになったのは、やってきた事が活かされた、巡り合わせを強く感じました。これまで様々な経験をさせていただき、秋曹青に、全曹青に育てて頂きました。今度は恩返しの意味も込めて、私の経験を両青年会に活かしていきたいと考えています。

——今期の全曹青では前期に引き続き『過疎問題』に取り組まれるとの事で、過疎に関する情報を共有し、全体に発信できれば」と全曹青広報誌で述べておられます。ぜひ具体的にお聞かせ下さい。

山田師：秋曹青も栗谷会長の新体制となり、過疎化が進む地域にお住まいで、認識を共有出来ると思います。過疎問題は、全曹青

では前期基幹事業として、研修会などを行なってきました。アンケートを取り、具体的な数値等も明らかになりました。その結果、今まで危機感に「流されて」いた方々も現状を正確に認識する事が出来ました。そして各地で熱意をもってこの問題に取り組む青年僧侶の活動を知り、刺激を受けた事が、大きな成果でした。将来影響を最も受けるのは我々青年僧侶ですから、『我が事』として受け止めるのが不可欠です。

コロナ禍で劇的に進んだ最たるものが『オンライン化』ですが、それによって、頑張っている青年僧侶の活動がより多くの人々の目に触れ、そしてお寺や僧侶の『新たな在り方』が今後も発見されていくでしょう。それを「発掘」する事が、それこそ「持続可能な社会」に向けて、過疎対策にも繋がっていくと思います。これまでに全曹青では、個々の青年僧侶の取り組みを充分には採り上げてこられませんでした。今後はそこを意識しながら、全国加盟青年会との連携を生かし、頑張っている一人一人の取り組みを発信・共有して、活動の参考にさせて頂くのが、全曹青の役割だと思っています。これは宗務庁からも要請されている点で、庁内の過

疎対策会議に協力させて頂いており、協同して進めてまいります。

——師はこれまで、秋曹青でも要職を歴任してられました。若い会員にメッセージをお願いします。

山田師：改めて思うのは、青年会の活動は「楽しかった」という事です。多くの会員と協力して、一つの事業を成し遂げる。一生懸命にやればやっただけ楽しかったですし、それが青年会の醍醐味だと思います。

その意味で、コロナ禍による昨年度の東北大会中止は本当に残念でした。赤石前会長も、さぞ無念だったと思います。六年に一度、文字通り秋曹青の総力を結集して、一堂に会して行なえる最大の行事が東北大会です。会員が秋曹青の存在を改めて実感できますし、全県にその成果をお見せできる最高の機会になった筈でした。また、コロナ禍で懇親の機会も失われていますので、秋曹青の存在感が薄れているのではと危惧しています。私はウェブ委員を長く務めましたので、取材や撮影にかこつけて本当に多くの行事に参加させて頂きました。「発信」する事が、会の内部にも外部にも非常に重要だと実

感しています。現職の方々には、特にウェブでの発信を頑張ってもらいます。

東日本大震災のボランティア活動も、当時は出来ることはやっただけでしたが、今になってみれば、もつと現地に足を運びたかったと強く思います。自然災害が多発する昨今、《僧侶だからこそ出来る》事があります。コロナが収束したら、若い会員さんには是非積極的に活動してほしいです。

今は個人で多彩に活動する青年僧侶が沢山おられますが、会としてこそ出来る事も多くある筈です。仲間として、会員同士で県内の横の繋がりを深める事は大きな力になります。またこれまでの会の活動の枠組みにとらわれない、時代に即した、新しく柔軟な取り組みもできると思います。そういったアイデアを出せるのは、やはり若い会員さんです。私自身、これからも楽しみながら参加するつもりですし、やる気を持った会員が《全国へ》《世界へ》羽ばたけるお手伝いをしていきたいと思えます。

——更なるご活躍を祈念しております。有難うございました。

(聞き手：佐々木耕志)

協定締結

五月七日、曹洞宗秋田県宗務所婦人会（以下、「婦人会」と略称）と秋曹青との間で協定が締結され、野呂田恵子・婦人会会長と栗谷秋曹青会長が覚書を交わしました。近年多発する自然災害に備え、協力体制を即座に取れるよう、次のような内容が盛り込まれました。

● 災害発生時、婦人会副会長を委員長とする「婦人会・秋曹青ボランティア協力委員会」を発足させる。

● 金銭的、物質的支援をする。金銭は直接団体（赤十字募金など）へ寄付するか、秋曹青ボランティア委員会に一任する。

● 必要に応じて人的協力や、相互の情報共有、交流も行う。

ボランティア活動において、男性が圧倒的多数を占める秋曹青会員のみでは、行き届かない部分も多々あります。婦人会の皆さんの御協力を頂きながら、きめ細かい支援を図っていききたいものです。

(佐々木耕志)



熊本へ扇風機を

さる6月22日、秋曹青より、昨年の熊本豪雨災害被災者の仮設住宅宛てに、扇風機五台を送らせて頂きました。

現地では今なお三千七百名以上の方々が仮設住宅で暮らしており、熱中症も懸念されております。

そこで、全曹青が現地の要請に応える形で全国に向けて扇風機を募集し、それに秋曹青でも協力させて頂きました。

仮設住宅での暮らしが、少しでも快適になりますように願っております。

(会長 栗谷大三)

「弁道会」に参加して

六月二十九日、秋田キャッスルホテルにおいて令和三年度弁道会『共に考えよう「SDGs × 寺院の可能性」』が感染症対策をした上で開催されました。

講師として長岡俊成師を迎え、SDGsとは何かという基本的なことから、何故曹洞宗は

SDGsに取り組んでいるのかということを講義して頂きました。

最近ではテレビ番組や新聞など、メディアに取り上げられることが多くなってきたと思いますが、「SDGsとはどのようなものであるか」ということをグラフ・表・事例を使い、わかりやすく解説して頂きました。今までは、SDGsとは「持続可能な開発目標」で、「十七個の環境や社会等に関する目標が定められている」といった、かなり漠然とした理解でしかありませんでした。しかし、十七個の目標にもそれぞれ細かなターゲットがあり、さらには十七個の目標がそれぞれ独立したものではなく、他の目標ともつながっているということを初めて学びました。

また、SDGsを分解して考えると、**「持続可能な」**地球の環境を壊さず、資源も使いすぎず、未来の世代も美しい地球で平和に豊かに、ずっと生活し続けていける社会を目指す、**「開発」**「今ある状態からもっとよい形に変わること、変えていく取り組み※対象は開発途上国だけではない」となります。

曹洞宗では、一九九一年以来「人権・平和・環境」のローガンのもとあらゆる差別の根絶、平和な社会への実現、地球環境への配慮、被災地支援や自死問題への対応など、様々な取り組みがされており「誰一人取り残さない社会の実現」を目指しています。これらは貧困や差別、環境や平和の問題を包括的に理解し、連携して取り組もうというSDGsの目標と理念を同じくするものでしょう。そしてSDGsの実践は、四摂法である「布施・愛語・利行・同事」に代表される菩薩行の実践として位置づけることができます。

一人でいきなりSDGsに取り組もうとしても、多すぎる目標やどのような導入をすればいいのか、取り込みづらいうちに思えてしまいます。しかし、曹洞宗ではSDGsに関するホームページや研修会・ポスター・リーフレットを用意しています。自分一人でやろうとするのではなく、積極的に学び参加することが大事であることを、気付かせて頂くいい機会となりました。

(広報部 佐々木光惇)

